

第2 刑法犯少年

POINT!

- 検挙人員は**278**人(前年比-124人)で9年連続**減少**
- 刑法犯少年のおよそ4人に1人が**万引き**での検挙
- 再犯者率は**29.1%**(前年比-2.0ポイント)で3年連続**低下**

1 検挙人員、刑法犯総検挙人員に占める少年の割合及び人口比

- 検挙人員は278人で、前年に比べ124人(30.8%)**減少**しました。
- 刑法犯総検挙人員に占める少年の割合(構成比)は7.8%で、前年に比べ1.7ポイント**低下**しました。
- 茨城県の少年人口(14~19歳)は162,039人で、前年に比べ3,758人(2.3%)**減少**しました。
- 少年の人口比は1.7人で、前年に比べ0.7人**減少**しました。
また、成人の人口比に比べ0.3人**多くな**っています。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	前年比	増減率
	刑法犯総検挙人員	6,643	6,032	5,611	4,809	5,068	5,141	4,873	4,909	4,237	3,562	-675
少年	1,799	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	-124	-30.8%
うち女子	382	280	214	156	96	78	60	50	56	28	-28	-50.0%
成人	4,844	4,372	4,228	3,594	4,084	4,293	4,209	4,396	3,835	3,284	-551	-14.4%
刑法犯総検挙人員に占める少年の割合(構成比)	27.1%	27.5%	24.6%	25.3%	19.4%	16.5%	13.6%	10.5%	9.5%	7.8%	-1.7P	-
少年人口	173,835	175,555	174,816	173,338	171,241	170,269	169,764	168,631	165,797	162,039	-3,758	-2.3%
人口比	10.3	9.5	7.9	7.0	5.7	5.0	3.9	3.0	2.4	1.7	-0.7	-
成人人口	2,425,652	2,416,416	2,411,819	2,406,330	2,401,620	2,412,268	2,406,074	2,401,376	2,396,035	2,390,282	-5,753	-0.2%
人口比	2.0	1.8	1.8	1.5	1.7	1.8	1.7	1.8	1.6	1.4	-0.2	-

注：表中の少年人口は、茨城県政策企画部統計課の「茨城県常住人口調査(茨城県の年齢別人口)」(令和元年10月1日現在)から14~19歳までの人口を抜粋しました。又、成人人口については、20歳以上の人口を抜粋しました。

2 包括罪種・手口別検挙状況

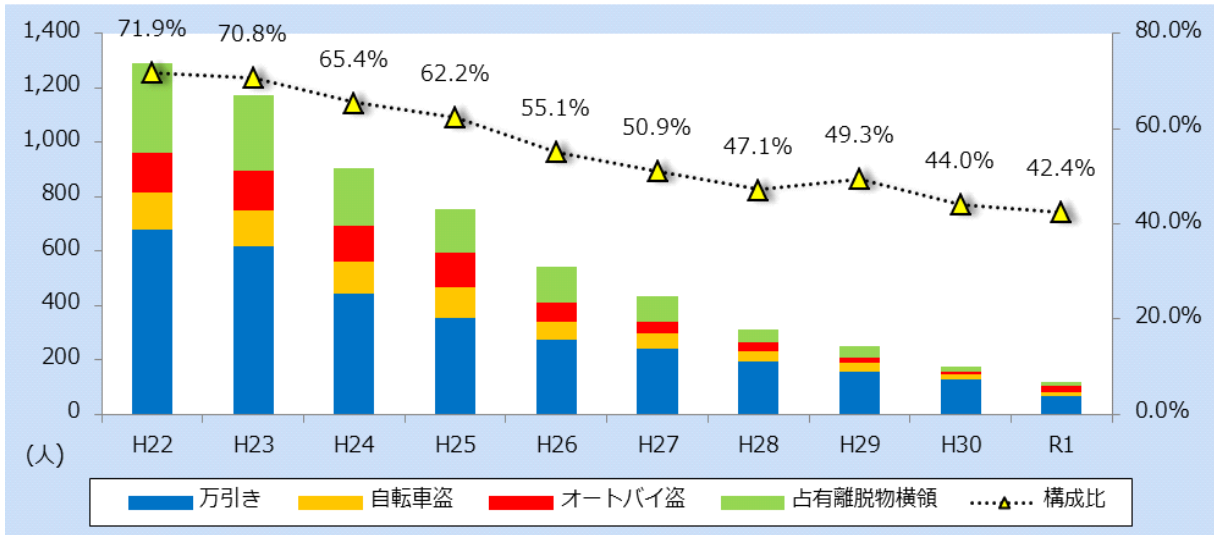
(1) 推移

令和元年中は、前年に比べ、粗暴犯は29人(34.9%)、窃盗犯は74人(32.9%)、知能犯は25人(73.5%)、その他の刑法犯は6人(11.8%)**減少**しましたが、凶悪犯は3人(50.0%)、風俗犯は7人(233.3%)**増加**しました。

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	前年比	増減率
	総数	1,799	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	-124
凶悪犯	22	15	24	23	13	26	16	11	6	9	3	50.0%
殺人	4	1	1	1	1	1	1	2	2	0	±0	-
強盗	11	7	20	21	10	22	14	0	1	7	6	600.0%
放火	5	6	1	0	2	1	0	2	0	0	±0	-
強制性交等	2	1	2	1	0	2	1	7	3	2	-1	-33.3%
粗暴犯	220	185	202	197	164	165	118	85	83	54	-29	-34.9%
暴行	29	14	40	54	35	31	22	21	17	20	3	17.6%
傷害	116	132	132	120	102	119	84	54	42	30	-12	-28.6%
恐喝	72	28	28	21	15	14	10	10	21	4	-17	-81.0%
その他	3	11	2	2	12	1	2	0	3	0	-3	-100.0%
窃盗犯	1,081	1,005	814	719	563	474	384	269	225	151	-74	-32.9%
侵入盗	24	20	30	22	42	32	20	18	16	9	-7	-43.8%
空き巣	4	9	8	4	3	6	6	3	10	5	-5	-50.0%
居空き	3	0	1	1	1	2	0	0	2	0	-2	-100.0%
出店荒し	8	5	10	3	22	16	2	3	1	0	-1	-100.0%
倉庫荒し	1	0	2	2	4	1	4	0	0	1	1	-
学校荒し	2	3	2	2	0	2	5	0	0	1	1	-
その他	6	3	7	10	12	5	3	12	3	2	-1	-33.3%
非侵入盗	767	700	515	430	363	318	271	191	180	100	-80	-44.4%
万引き	678	617	446	352	272	239	194	156	130	66	-64	-49.2%
車上ねらい	4	11	11	7	1	5	1	4	0	0	±0	-
自販機ねらい	12	0	6	10	13	31	18	6	11	4	-7	-63.6%
部品ねらい	16	7	10	16	10	17	7	2	4	3	-1	-25.0%
ひったくり	4	4	4	4	10	0	2	1	5	0	-5	-100.0%
置き引き	18	9	4	5	10	5	7	4	5	3	-2	-40.0%
その他	35	52	34	36	47	21	42	18	25	24	-1	-4.0%
乗り物盗	290	285	269	267	158	124	93	60	29	42	13	44.8%
自動車盗	7	7	21	23	18	22	24	7	2	2	±0	-
オートバイ盗	145	144	132	129	69	41	30	21	9	23	14	155.6%
自転車盗	138	134	116	115	71	61	39	32	18	17	-1	-5.6%
知能犯	19	11	14	10	21	26	18	33	34	9	-25	-73.5%
詐欺	15	10	13	9	20	22	16	28	34	9	-25	-73.5%
その他	4	1	1	1	1	4	2	5	0	0	±0	-
風俗犯	6	4	9	6	10	7	9	11	3	10	7	233.3%
強制わいせつ	6	3	5	4	10	7	8	10	3	10	7	233.3%
その他	0	1	4	2	0	0	1	1	0	0	±0	-
その他の刑法犯	451	440	320	260	213	150	119	104	51	45	-6	-11.8%
占有離脱物横領	332	280	211	160	130	91	50	44	20	12	-8	-40.0%
住居侵入	54	45	31	28	38	10	31	21	15	19	4	26.7%
器物損壊	28	53	26	34	27	23	12	17	3	6	3	100.0%
盗品等	22	25	17	6	9	12	3	8	2	2	±0	-
その他	15	37	35	32	9	14	23	14	11	6	-5	-45.5%

(2) 初発型非行の推移

刑法犯少年に占める初発型非行の割合(構成比)は、平成22年から7年連続で低下し、平成29年に上昇しましたが、平成30年に低下し、令和元年中は42.4%で前年と比べ1.6ポイント**低下**しました。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	前年比	増減率
刑法犯少年	1,799	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	-124	-30.8%
初発型非行	1,293	1,175	905	756	542	432	313	253	177	118	-59	-33.3%
万引き	678	617	446	352	272	239	194	156	130	66	-64	-49.2%
自転車盗	138	134	116	115	69	61	39	32	18	17	-1	-5.6%
オートバイ盗	145	144	132	129	71	41	30	21	9	23	14	155.6%
占有離脱物横領	332	280	211	160	130	91	50	44	20	12	-8	-40.0%
刑法犯少年全体に占める初発型非行の割合(構成比)	71.9%	70.8%	65.4%	62.2%	55.1%	50.9%	47.1%	49.3%	44.0%	42.4%	-1.6P	-



初発型非行とは？

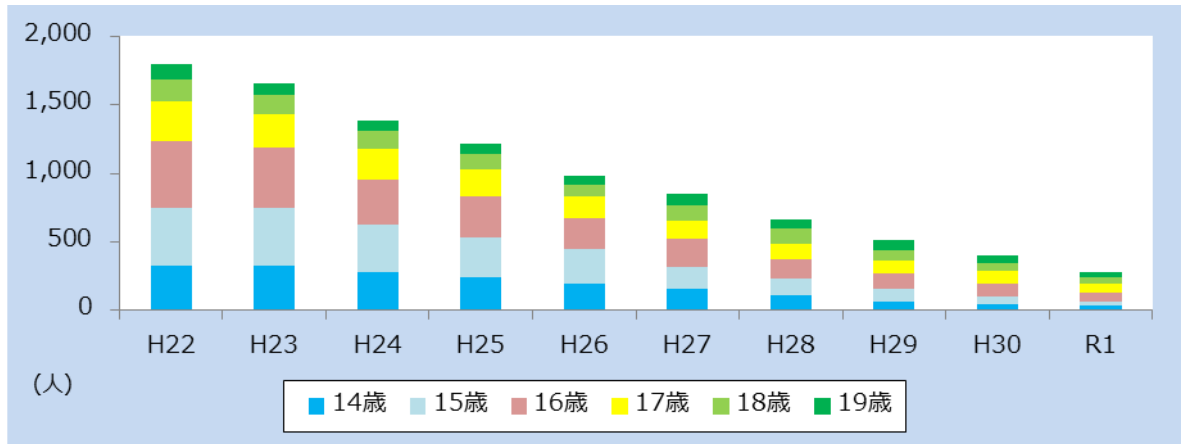
初発型非行とは、**万引き、自転車盗、オートバイ盗及び占有離脱物横領**の4罪種をいいます。

「遊び型非行」などと呼ばれることもあり、刑法犯少年が統計開始以降で最多となった「第3のピーク」期から、刑法犯少年の約6割を初発型非行で検挙された少年が占めるようになり、以降、現在まで高い割合を占め続けています。

初発型非行は、**動機が単純で、犯行も簡単であり罪の意識のハードルが低い**という特徴があります。犯罪を繰り返すうちに犯罪意識が薄れ、徐々にエスカレートする傾向があるので、決して安易に対応してはいけません。

3 年齢別検挙状況

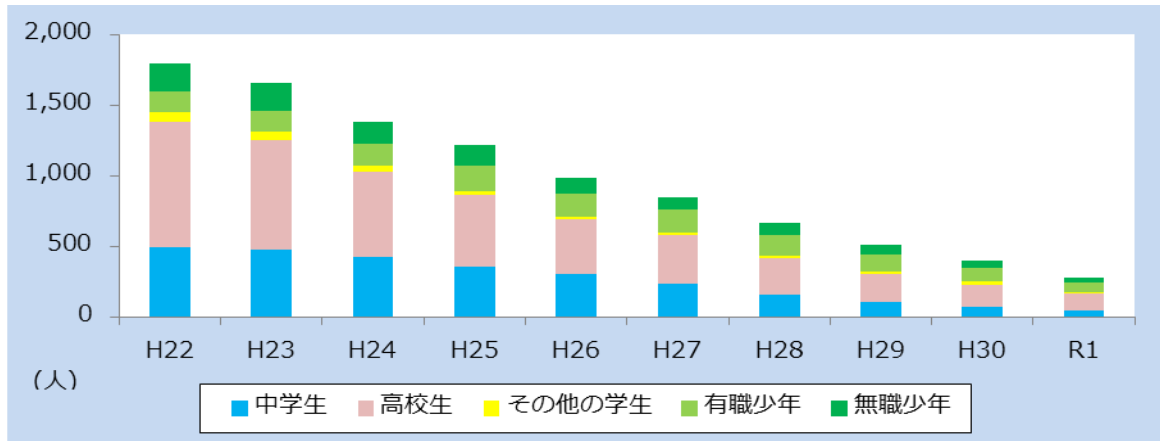
令和元年中は、16歳が69人で最も多く、刑法犯少年の24.8%を占めました。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	前年比	
											前年比	増減率
総数	1,799	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	-124	-30.8%
14歳	324	323	278	244	195	152	106	66	41	30	-11	-26.8%
15歳	424	420	351	285	252	166	121	89	55	31	-24	-43.6%
16歳	490	448	321	298	228	199	143	110	100	69	-31	-31.0%
17歳	284	240	233	205	153	140	114	100	95	66	-29	-30.5%
18歳	163	140	124	113	87	106	117	68	56	47	-9	-16.1%
19歳	114	89	76	70	69	85	63	80	55	35	-20	-36.4%

4 学職別検挙状況

令和元年中は、高校生が124人で最も多く、刑法犯少年の44.6%を占めました。



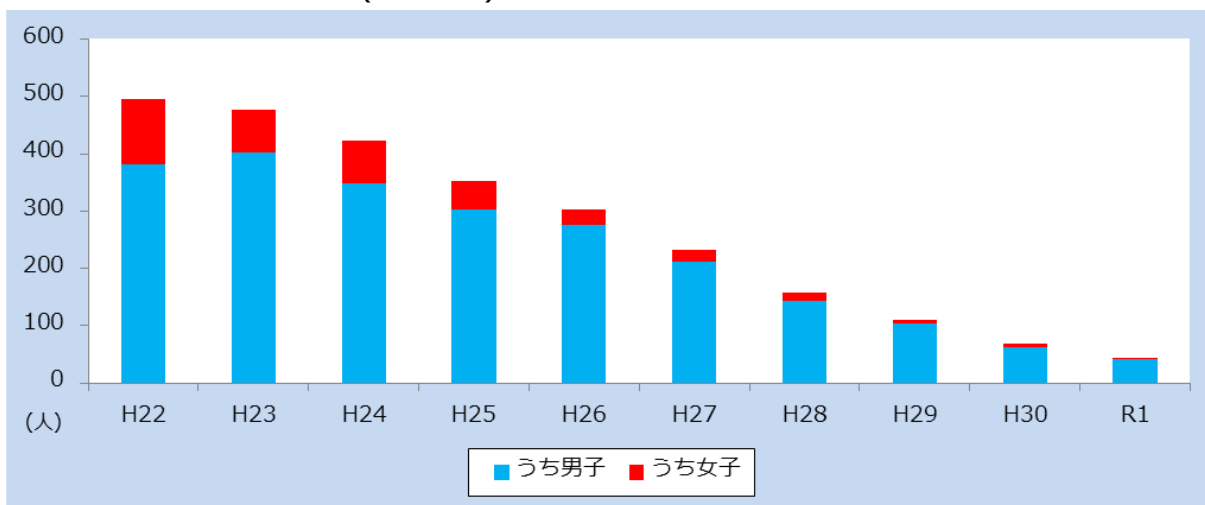
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	前年比	
											前年比	増減率
総数	1,799	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	-124	-30.8%
中学生	496	477	422	353	302	233	158	109	69	44	-25	-36.2%
高校生	889	777	611	515	391	345	257	195	160	124	-36	-22.5%
その他の学生	67	56	36	26	21	22	22	20	24	11	-13	-54.2%
有職少年	146	152	156	180	161	161	141	119	98	64	-34	-34.7%
無職少年	201	198	158	141	109	87	86	70	51	35	-16	-31.4%

注：「その他の学生」とは、大学生及び専修学校生等

(1) 中学生の非行

ア 検挙人員の推移

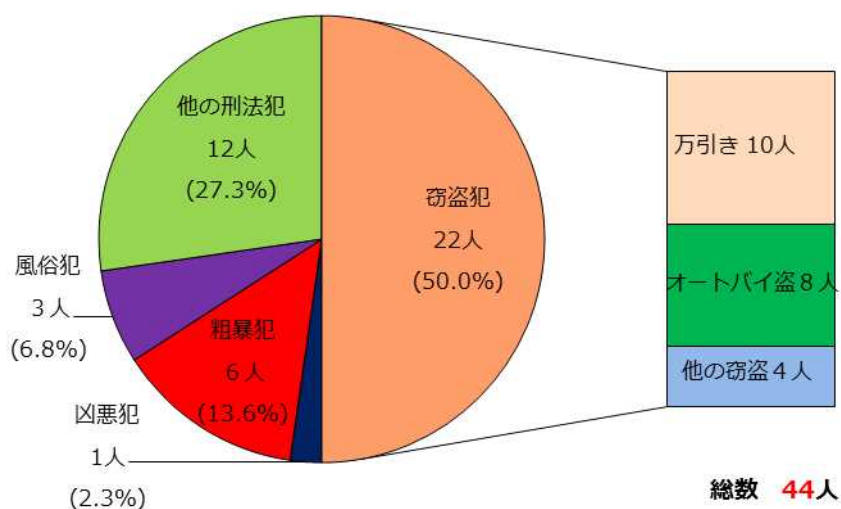
検挙人員は平成22年から減少が続いており、令和元年中は44人で、前年に比べ25人(36.2%)減少しました。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	前年比	増減率
	中学生	496	477	422	353	302	233	158	109	69	44	-25
うち男子	381	403	348	302	275	211	144	103	62	41	-21	-33.9%
うち女子	115	74	74	51	27	22	14	6	7	3	-4	-57.1%

イ 包括罪種別検挙状況

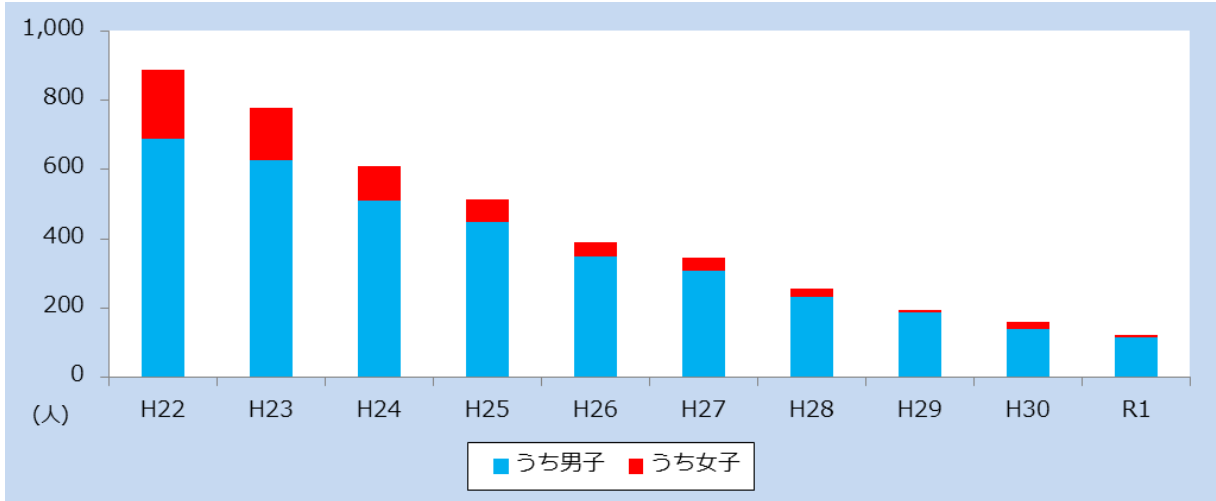
- 包括罪種別の検挙状況は、窃盗犯が22人で最も多く、中学生全体の50.0%を占めました。
- 窃盗犯の手口別では、万引きが10人で最も多く、窃盗犯として検挙された中学生の45.5%を占めました。



(2) 高校生の非行

ア 検挙人員の推移

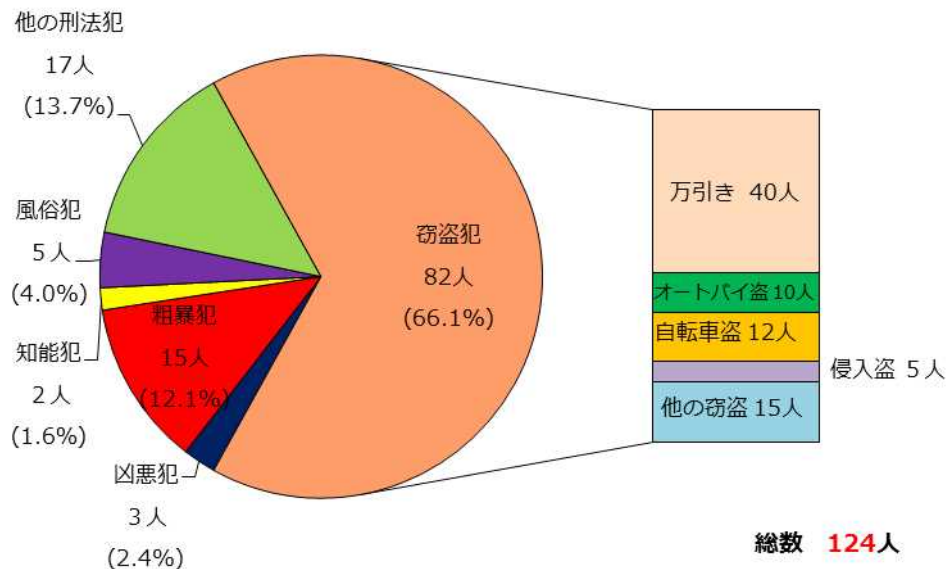
検挙人員は平成23年から減少が続いており、令和元年中は124人で、前年に比べ36人(22.5%)**減少**しました。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	前年比 増減率	
	高校生	889	777	611	515	391	345	257	195	160	124	-36
うち男子	688	628	509	449	350	307	232	177	139	114	-25	-18.0%
うち女子	201	149	102	66	41	38	25	18	21	10	-11	-52.4%

イ 包括罪種別検挙状況

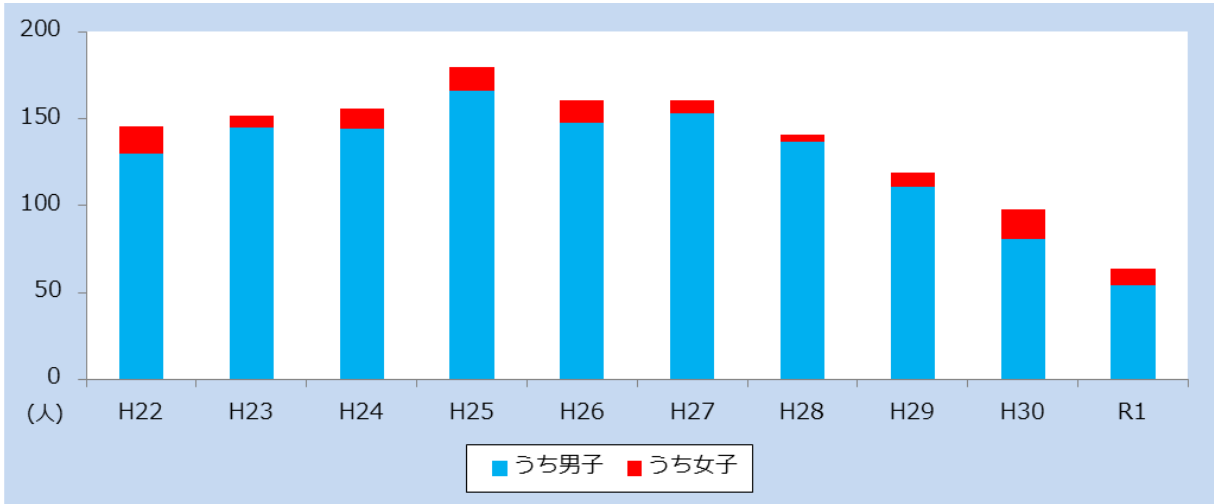
- 包括罪種別の検挙状況は、窃盗犯が82人で最も多く、高校生全体の66.1%を占めました。
- 窃盗犯の手口別では、万引きが40人で最も多く、窃盗犯として検挙された高校生の48.8%を占めました。



(3) 有職少年の非行

ア 検挙人員の推移

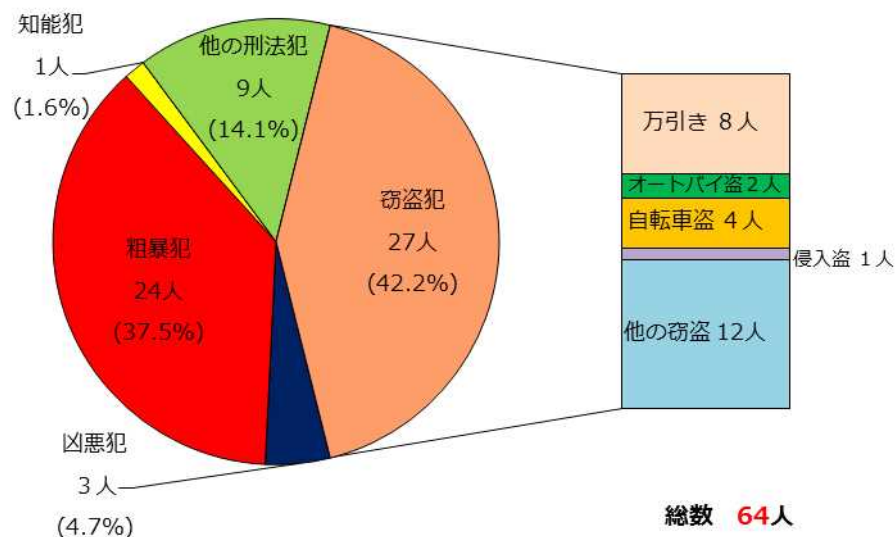
検挙人員は平成26年から減少傾向にあり、令和元年中は64人で、前年に比べ34人(34.7%)減少しました。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1		
											前年比	増減率
有職少年	146	152	156	180	161	161	141	119	98	64	-34	-34.7%
うち男子	130	145	144	166	148	153	137	111	81	54	-27	-33.3%
うち女子	16	7	12	14	13	8	4	8	17	10	-7	-41.2%

イ 包括罪種別検挙状況

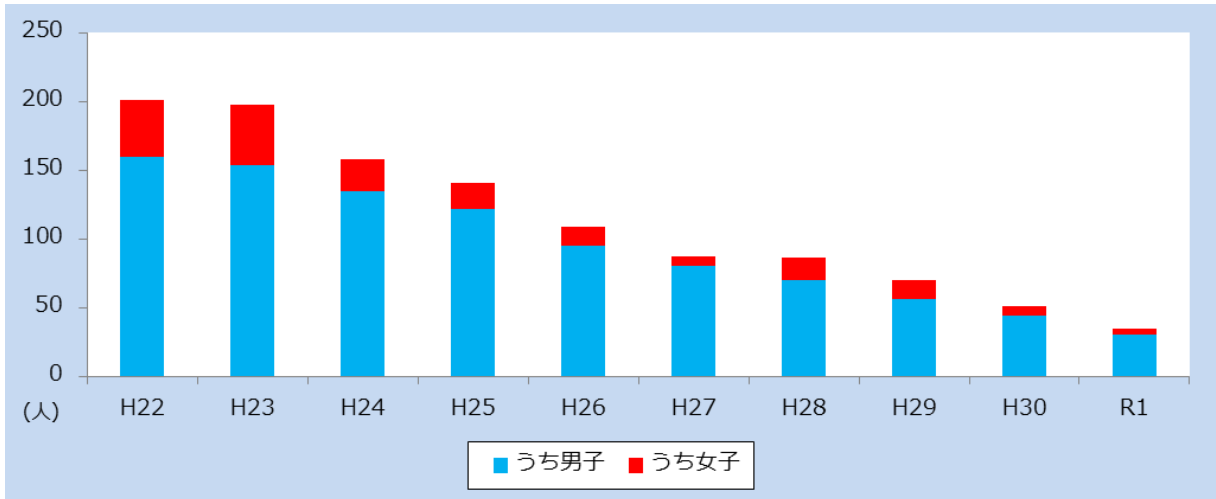
- 包括罪種別の検挙状況は、窃盗犯が27人で最も多く、有職少年全体の42.2%を占めました。
- 窃盗犯の手口別では、万引きが8人で最も多く、窃盗犯として検挙された有職少年の29.6%を占めました。



(4) 無職少年の非行

ア 検挙人員の推移

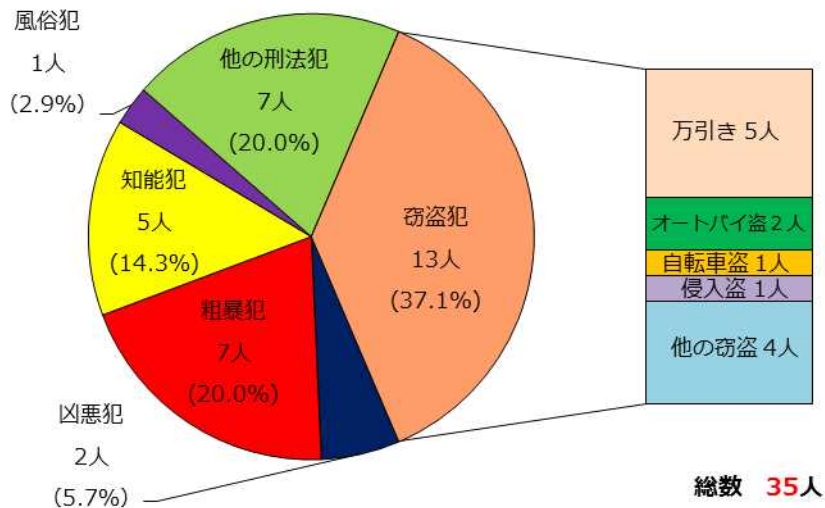
検挙人員は平成23年から減少が続いており、令和元年中は35人で、前年に比べ16人(31.4%)減少しました。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	前年比	増減率
	無職少年	201	198	158	141	109	87	86	70	51	35	-16
うち男子	160	154	135	122	95	80	70	56	44	30	-14	-31.8%
うち女子	41	44	23	19	14	7	16	14	7	5	-2	-28.6%

イ 包括罪種別検挙状況

- 包括罪種別の検挙状況は、窃盗犯が13人で最も多く、無職少年全体の37.1%を占めました。
- 窃盗犯の手口別では、万引きが5人で最も多く、窃盗犯として検挙された無職少年の38.5%を占めました。

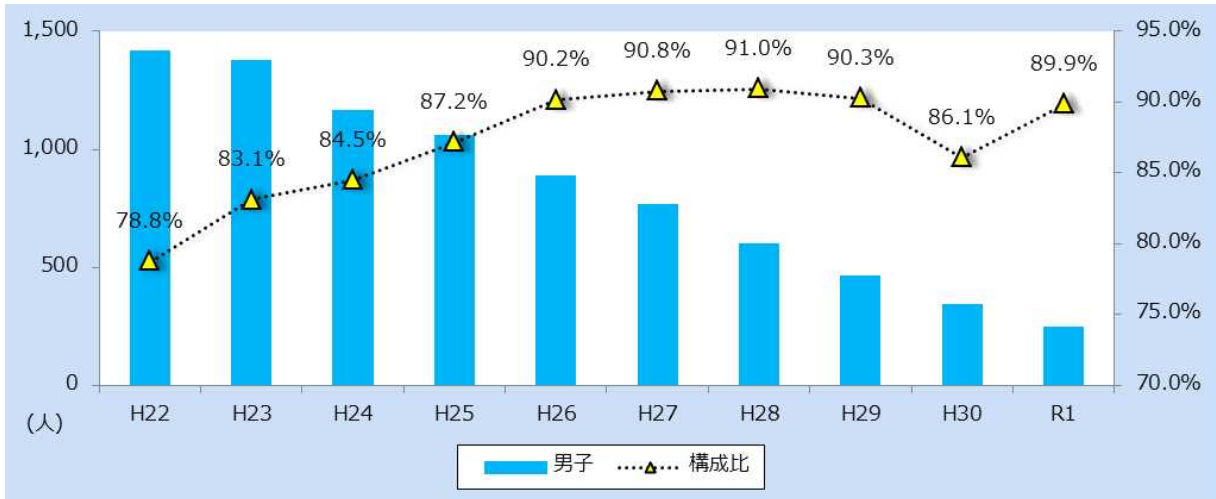


5 男女別検挙状況

(1) 男子の非行

ア 検挙人員の推移

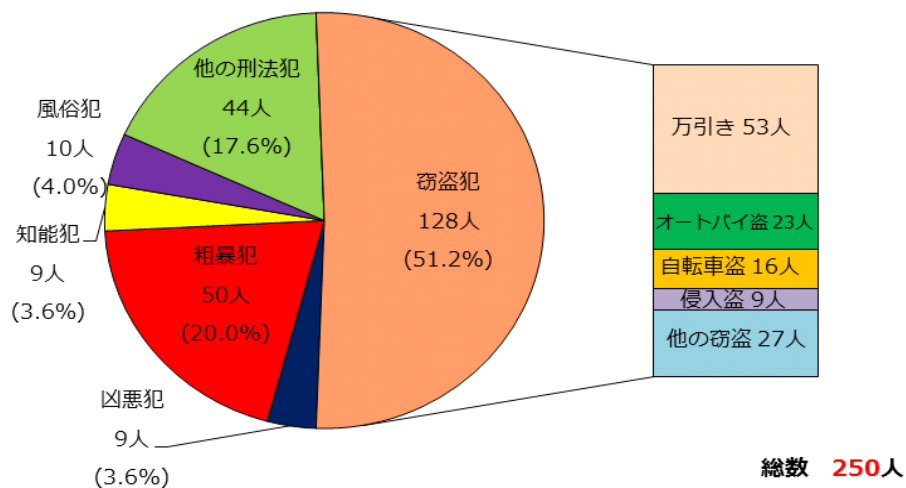
- 検挙人員は平成23年から減少が続いており、令和元年中は250人で、前年に比べ96人(27.7%)**減少**しました。
- 刑法犯少年に占める男子の割合(構成比)は89.9%で、前年に比べ3.8ポイント**上昇**しました。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	前年比	増減率
	刑法犯少年	1,799	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	-124
うち男子	1,417	1,380	1,169	1,059	888	770	604	463	346	250	-96	-27.7%
構成比	78.8%	83.1%	84.5%	87.2%	90.2%	90.8%	91.0%	90.3%	86.1%	89.9%	+3.8P	-

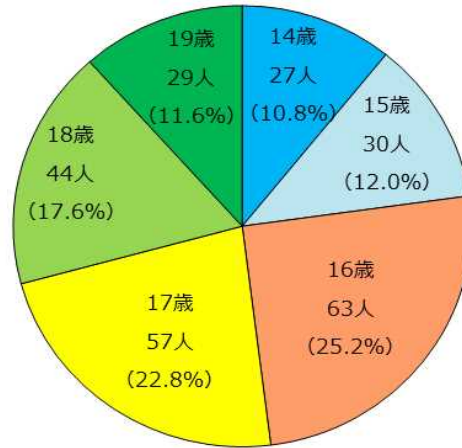
イ 包括罪種別検挙状況

- 包括罪種別の検挙状況は、窃盗犯が128人で最も多く、刑法犯少年(男子)の51.2%を占めました。
- 窃盗犯の手口別では、万引きが53人で最も多く、窃盗犯として検挙された刑法犯少年(男子)の41.4%を占めました。



ウ 年齢別

16歳が63人で最も多く、刑法犯少年(男子)の25.2%を占め、次いで17歳が57人で、刑法犯少年(男子)の22.8%を占めました。

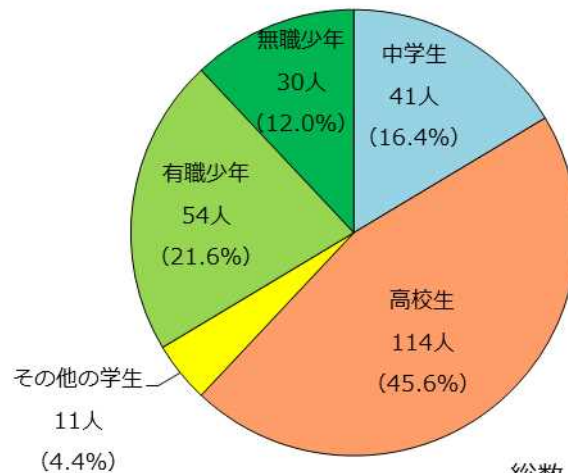


総数 250人

	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	総数
刑法犯少年(男子)	27	30	63	57	44	29	250
構成比	10.8%	12.0%	25.2%	22.8%	17.6%	11.6%	-

エ 学職別

高校生が114人で最も多く、刑法犯少年(男子)の45.6%を占め、次いで有職少年が54人で、刑法犯少年(男子)の21.6%を占めました。



総数 250人

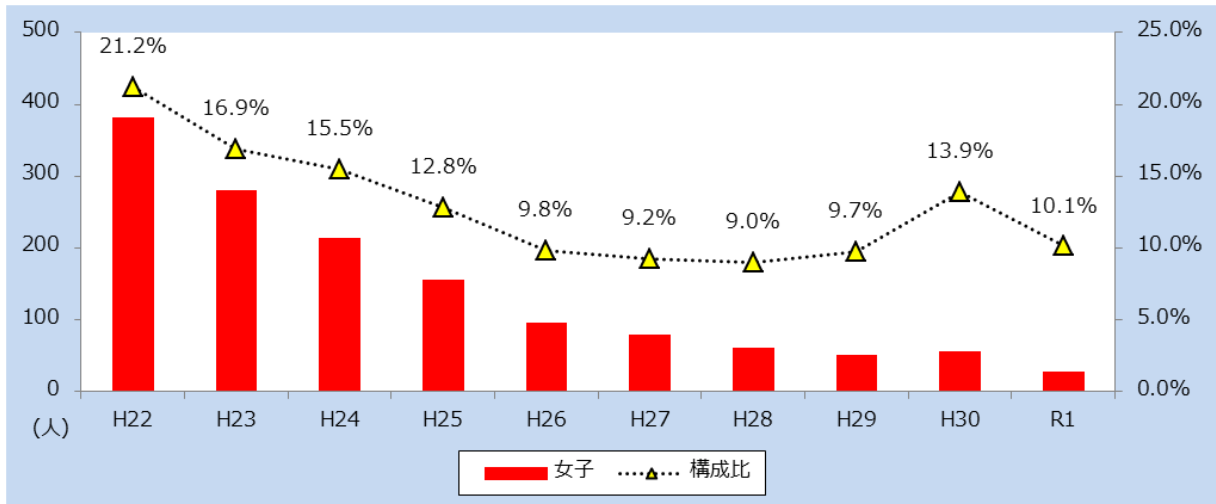
	中学生	高校生	その他の学生	有職少年	無職少年	総数
刑法犯少年(男子)	41	114	11	54	30	250
構成比	16.4%	45.6%	4.4%	21.6%	12.0%	-

注：「その他の学生」とは、大学生及び専修学校生等

(2) 女子の非行

ア 検挙人員の推移

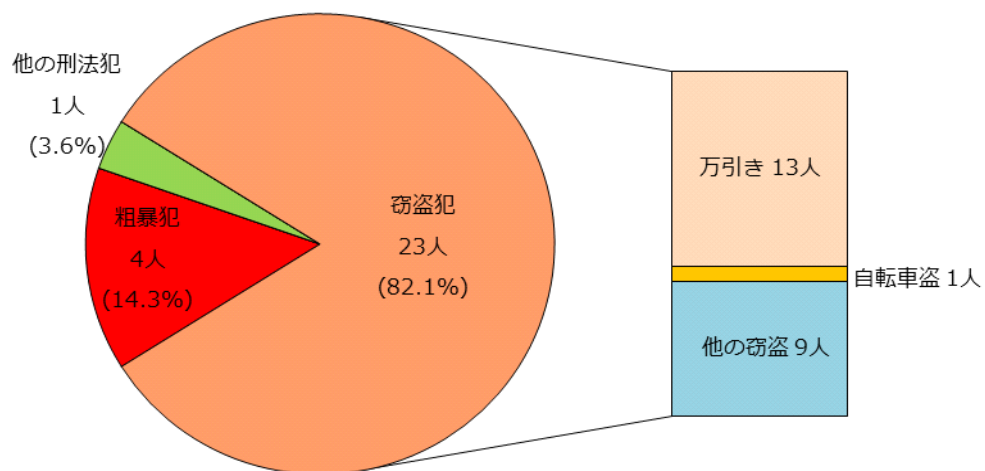
- 検挙人員は平成23年から7年連続で減少し、平成30年に一旦、増加しましたが、令和元年中は28人で、前年に比べ28人(50.0%)**減少**しました。
- 刑法犯少年に占める女子の割合(構成比)は10.1%で、前年に比べ3.8ポイント**低下**しました。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	前年比	増減率
	刑法犯少年	1,799	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	-124
うち女子	382	280	214	156	96	78	60	50	56	28	-28	-50.0%
構成比	21.2%	16.9%	15.5%	12.8%	9.8%	9.2%	9.0%	9.7%	13.9%	10.1%	-3.8P	-

イ 包括罪種別検挙状況

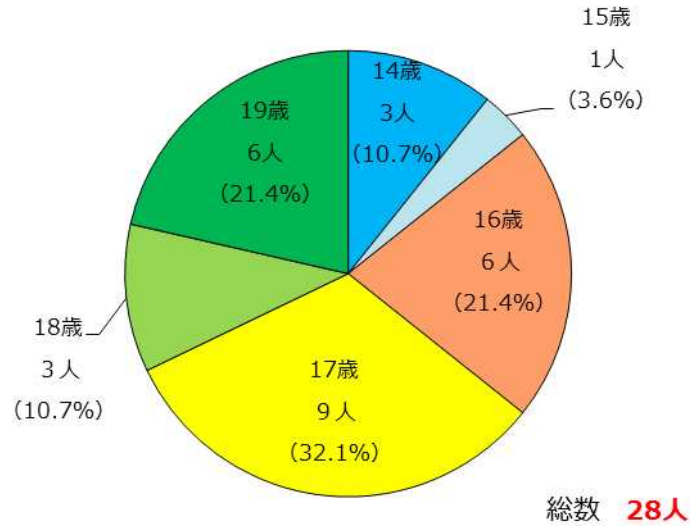
- 包括罪種別の検挙状況は、窃盗犯が23人で最も多く、刑法犯少年(女子)の82.1%を占めました。
- 窃盗犯の手口別では、万引きが13人で最も多く、窃盗犯として検挙された刑法犯少年(女子)の56.5%を占めました。



総数 56人

ウ 年齢別

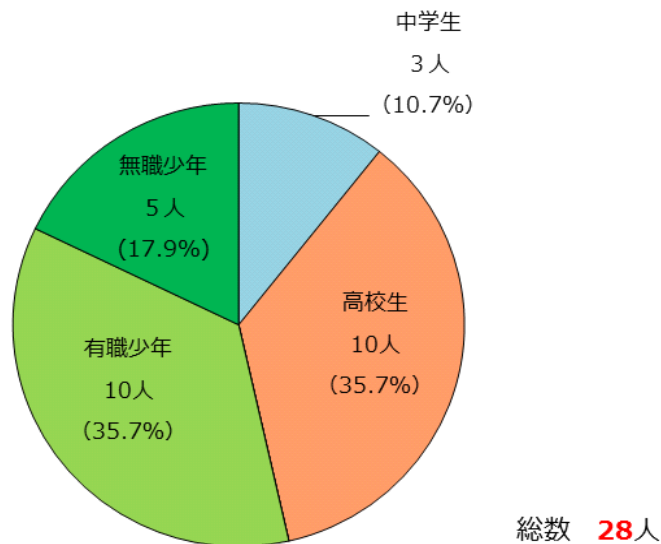
17歳が9人で最も多く、刑法犯少年(女子)の32.1%を占め、次いで16歳と19歳がそれぞれ6人で、いずれも刑法犯少年(女子)の21.4%を占めました。



	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	総数
刑法犯少年(女子)	3	1	6	9	3	6	28
構成比	10.7%	3.6%	21.4%	32.1%	10.7%	21.4%	-

エ 学職別

高校生と有職少年がそれぞれ10人で最も多く、いずれも刑法犯少年(女子)の35.7%を占めました。



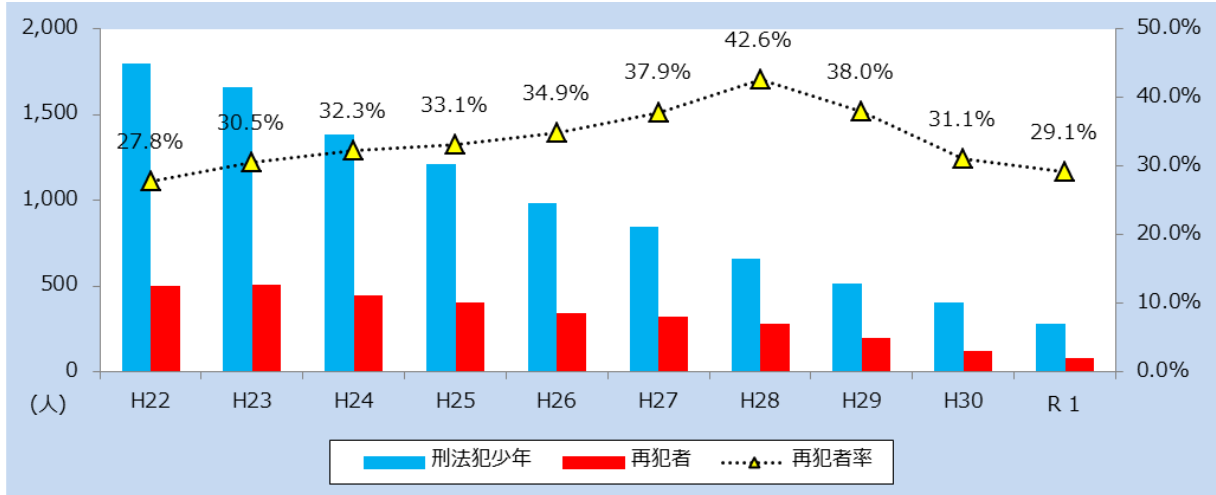
	中学生	高校生	その他の学生	有職少年	無職少年	総数
刑法犯少年(女子)	3	10	0	10	5	28
構成比	10.7%	35.7%	0.0%	35.7%	17.9%	-

注:「その他の学生」とは、大学生及び専修学校生等

6 再犯者率

刑法犯少年に占める再犯者数の割合(再犯者率)は、平成22年から上昇していましたが、平成29年から3年連続で低下しました。

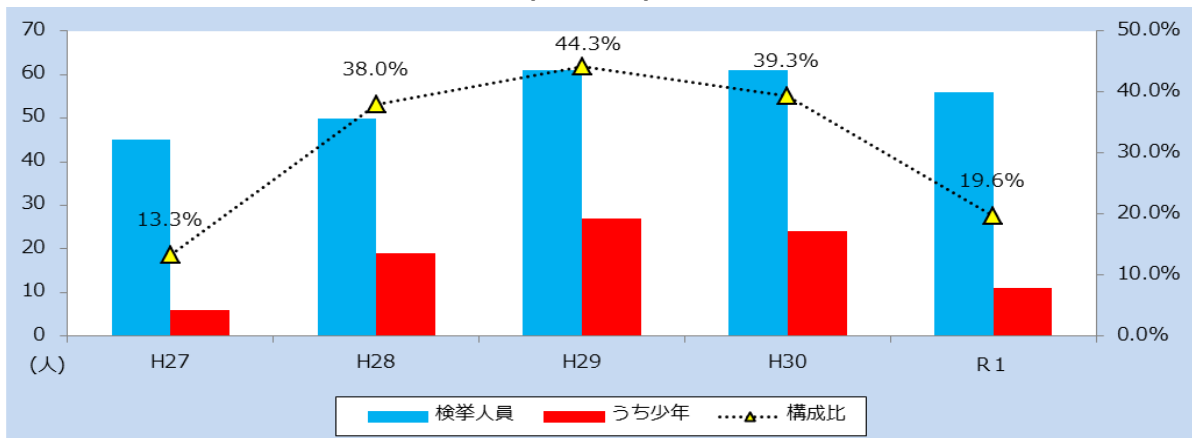
令和元年中は29.1%で、前年に比べ2.0ポイント低下しました。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	前年比	
											増減率	増減率
刑法犯少年	1,799	1,660	1,383	1,215	984	848	664	513	402	278	-124	-30.8%
再犯者	500	507	447	402	343	321	283	195	125	81	-44	-35.2%
再犯者率	27.8%	30.5%	32.3%	33.1%	34.9%	37.9%	42.6%	38.0%	31.1%	29.1%	-2.0P	-

7 少年の二セ電話詐欺加担状況

令和元年中、二セ電話詐欺の検挙人員のうち、少年の検挙人員は11人で、検挙人員に占める少年の割合(構成比)は19.6%となっています。



	H27	H28	H29	H30	R1
検挙人員	45	50	61	61	56
うち少年	6	19	27	24	11 ※
構成比	13.3%	38.0%	44.3%	39.3%	19.6%
認知件数	404	428	353	364	376
検挙件数	43	47	74	104	157

※ 11人のうち、4人は、キャッシュカード詐欺盗による検挙

